



各國のイアンセアナック及び和蘭國ノ景況ヲ  
 徵証スルヲ要セハ須ラク伊太利亞ノ共和政治  
 繁榮上ニ如何ナル影響ヲ生ス可キヤ先ツ之ヲ  
 得可キニ非ス然レモ商業ノ開進ハ一國ノ幸福  
 ナリト雖モ亦能ク此冊子ヲ以テ其詳細ニ達シ  
 人治草ヲ講ス可シ之ヲ講スルハ其利益頗ル大  
 商法ノ沿革ヲ知ラント欲セハ宜ク先ツ商業上

高法ノ起原

緒言

國仙  
商工法鑑



4147  
A 1016

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



觀察ス可ク是等ノ諸國ハ往古未今其版圖甚々  
廣大ナルニ非ラス其人口亦甚々繁庶ナルニ非  
スシテ一時其國ノ繁榮ヲ極メ歐州ニ勢ヲ振フ  
タルハ職トシテ商業ニ由レルト亦瞭然タリ  
然リ而シテ商業開進スレハ必ス之ニ尋キテ商  
法學起ラザルトテ得ス蓋シ中古商業旺盛ノ名  
ヲ得タル伊太利亞國ニ於テハ其各都會ニ法律  
家アリテ初テテ商法ノ原典ヲ創起シタルハ是  
レ其商業盛ナレハ必ス商法學ヲ要スルヲ証ス  
ルニ足ルナリ

蓋シ商業上ノ契約及ヒ商業ヨリ生スル一切ノ  
所為ニ管スル諸規則ハ多クハ慣習ニ因リテ定  
マレル者ニシテ其慣習法ハ恰モ法律ニ均シキ  
カアリシカ當時ニ在テ此慣習法ヲ輯彙シタル  
書中其最モ重要ナル者ハ海上貿易ニ関スル書  
ニシテ就中ゴンシテラ、ド、ラ、メ、ー、ル  
(地中海ノ沿岸ニ於テ)  
ヲ集メタルノ慣習法及ヒロー、ル、ド、レ、ロ、ン  
(大西洋ノ航海ニ適)  
用ス可キ慣習法ノ二書ハ其最トス但シ此二書  
ハ之ヲ聽測スルニ千二百年代ノ古昔ニ起リシ  
者ナル可シ

我カ仙國ニ於テハ此等普通ノ慣習法ト其各所  
ノ貿易ニ管スル特別ノ慣習法トニ拘ハラズ別  
ニ律令書ヲ以テ商業ニ管スル諸規則ヲ定メタ  
リ然レド此諸規則タルヤ恐クハ猶未タ完備セ  
カレ者ニシテ貿易ノ益、開進スルニ從ヒ必要  
ト為ス所ヲ充タスニ足ラス

千六百七十三年ノ律令書及ヒ千  
六百八十一年ノ律令書

商法ノ全絡ヲ為セル法制ヲ設ケタルハ路易第  
十四世ノ時ニ在リトス故ニ古昔ノ制ヲ知ラン

ト欲セハ同時代ニ廻回セサルヲ得ス蓋シ路易  
第十四世ノ時ニ當リテ商業ニ大感動ヲ起ナシ  
メタルハゴルベール氏路易第十四世ノ宰相ノカニ在  
リテ其許多ノ製作場及ヒ貿易場ヲ設ケタルヨ  
リ海上貿易及ヒ航海ノ業ヲ大ニ進歩セシメタ  
ルニ至ルガ如キハ同氏ノ理財ノ方ニ巧妙ナル  
ニ由ル所ナリ

當時貿易ノ旺盛ナルヲ往時ニ比ス可ラサルヲ  
以テ十全完備ニシテ且全國ニ通行ス可キ一定  
ノ商法ヲ設ルノ必要ヲ覺ヘ千六百七十三年始

テ律令書ヲ以テ總テノ商業ニ管スル規則ヲ定  
メタリリ但シ大此律令各ハ「コレ」ルベシ「氏」ノ記「革」セシ「所」ナ  
リリ「カ」バ「リ」積「ミ」氏「ハ」其「身」素「ト」商「人」ニ「シ」テ「教」年「實」地  
ノ「經」驗「ヲ」積「ミ」兼「テ」商「法」字「ニ」通「シ」タ「ル」ヲ「以」テ「此」  
律令書ト呼ビテ其名ヲ不「朽」ニ傳ヘ「仙」國ノ習俗此  
其後千六百八十一年ノ律令書ヲ以テ海上法及  
ヒ海上貿易規則ヲ定メリリ思フニ此律令書ハ  
ノ「法」テ「ル」事「業」中「其」最「モ」善「美」ナル「昔」ハ「此」律令書  
十四世ノ或亦此律令書ハ帝ニ仙國人民ノ稱讚ヲ  
得タルノミナラス近傍ノ諸國モ亦各覽起シテ  
之ヲ慕倣シ遂ニ歐洲全國殆トト皆之ヲ用フル

ニ至レリ

斯ノ如ク路易第十四世ノ律令書ヲ叙述シタル  
所以ハ我カ方今ノ商法ハ直クニ之ニ管接シタ  
ル者ニシテ其諸條目ハ此律令書中ヨリ引用シ  
タル者頗ル多ケレハナリ然リト雖モ此律令書  
ハ之ヲ布告シタル後一世期ニシテ既ニ改正ラ  
要スルニ至リ是ニ於テ千七百八十九年之ヲ改  
正スル為ニ其委員ヲ設ケタリシカ國事多難ニ  
シテ遂ニ其目途ヲ實地ニ施ス「得」ス再ヒ其  
改正ニ着手シタルハ實ニ拿破翁第一世ノ「コ」

シル官タリシ時ニ在リトス

商法書

千八百一年第一コシル官即チオシホ委負ヲ命  
シテ商法書ノ編纂ニ任シ千八百六年ニ至リ其  
委負ノ編纂シタル議案ヲ參議院ノ議ニ付シ其  
議定ヲ經タル五箇ノ法律ヲ逐次ニ民選議院ニ  
付シテ其許諾ヲ得タリ然シテ此五箇ノ法律ハ  
千八百七年九月十五日ノ法律ヲ以テ之ヲ合シ  
テ一本ト為シ命スルニ商法ノ名ヲ以テシ翌千  
八百八年一月一日ヨリ此新法ヲ實地ニ施行ス

可キ旨ヲ定メタリ

商法書ハ之ヲ四篇ニ分ケ第一篇ハ總テノ商業  
ノ下ヲ記シ第二篇ハ海上貿易ノ下ヲ記シ第三  
篇ハ分散及ヒ倒産ノ下ヲ記シ第四篇ハ商法裁  
判所ノ設置方及ヒ其管轄ノ下ヲ記ス而シテ商  
法書ノ諸規則ハ每條順ヲ逐テ一連帶ヲ為シ合  
計六百四十八條ナリ

商法書ノ改正

商法書ハ我カ商法学ノ最モ盛大ナル標記ニシ  
テ貿易旺盛ナル諸開明國ノ共ニ之ヲ採用スル

処ナリ蓋シ我仙國ノ歐洲諸國ノ為メ其商法ノ  
基典ヲ備ヘシ面目ヲ得タルハ此商法書ノ在ル  
ニ據ルナリ

此商法書ノ重大ナルヲ如クシト雖モ猶ホ未夕  
完備ナラサル所アリテ改正ヲ要シ且商業ノ進  
歩ニ從テ更ニ其條目ヲ増補スルヲ要シタリ  
是ニ於テ千八百八年以來各種ノ法律ヲ以テ數  
回ノ改正増補ヲ為シタリト雖モ今一々之ヲ枚  
擧セス只其中殊ニ重要ナル法律ヲ擧レハ則テ  
千八百三十八年ノ法律 此法律ハ家資分最及ヒ  
例産ノ下ヲ記シタル事

三篇ヲ改正及ヒ千八百六十七年ノ法律此法律  
ハ株金  
會社ノ規則ニ在リトス  
改メタルモ規則ニ在リトス

旧時ノ工法及ヒ同業結社ノ事

前文既ニ商法ノ起因ヲ掲ケタルヲ以テ今亦此  
ニ工法ノ沿革ヲ略論スルニ蓋シ我カ旧時ノ工  
法ノ本質ハ同業結社ノ法ニシテ工業製作ハ一  
種ノ社會中ニ於テ之ヲ行フニ定メタリ故ニ  
工作ノ業ヲ営マント欲スル者ハ其社會中ニ加  
入ス可ク之レカ為メニハ許テ時日ヲ費シテ  
少ノ艱苦ヲ嘗メ若干ノ金錢ヲ擲ケテ其試驗ヲ

徑ナル可カラス且其各社會ハ互ニ其事業ノ範圍アリテ容易ニ之ヲ脱スルヲ得サリシカ今其一例ヲ舉レハ古着ノ改製職人ト裁縫職人トハ互ニ其業ノ範圍ヲ別ニシ甲ハ新衣ヲ裁スルヲ得ス乙ハ古着ヲ改製スルヲ得サルカ如キ此類ニシテ如是ナクノ景況タルヲ以テ各社會ノ争訟絶フルヲナクシテ屢々審庭ヲ煩ハシ時アリテハ救世期ヲ俟ルト雖モ尚判決セサル如キ訴訟ヲ生セシト有リ

右各社會種々ノ同業結社ノ設立方社會ニ入ル

ニ必要ノ條件及ヒ其法式授業師ト弟子トノ關係等ハ各種ノ章程規則免許狀ヲ以テ之ヲ規定シ且製作及ヒ販賣ノ法モ亦之ニ準シ萬事豫メ其法ヲ立テ之レカ制限ヲ設ケタレハ此制ヲ為メ工作自由ノ權地ニ落ケテ巨大ノ不便ヲ生シ旧習ノ陋癖ヲ永遠ニ傳ヘ新法新發明ヲ妨止シ各人工作起業ノ自由ヲ阻碍シテ其工作ノ進歩上ニ害アルヤ亦甚シカリキ

是ヲ以テ同業結社ノ制ハ路易第十六世ノ著名ナル律令書此律令書ハ千七百七十六年三月ノ日附ニシテラフセルゴール氏ノ起草ニ係

ルヲ以テ之ヲ廢棄シタリ而シテ此律令書ハ其  
序文ニ雄辯快筆以テ工作自由ノ原理ヲ保認シ  
タルカ故ニ蓋シ今日ヨリ之ヲ觀レハ恰モ新ナ  
ル工業制度ノ端緒ト謂フ可キナリ

現今ノ工法

工作自由ノ原理ハ我カ現今ノ工法ノ基礎タリ  
然レモ此自由ノ原理タルヤ猶未タ其制限ナル  
ヲ免アレサルハ蓋シ已ムテ得サルニ出ル所  
ナリ而シテ此自由ヲ制限シタルハ至ニ年則シ  
異ニセル各種ノ法律ニ因レリ依テ今之ヲ擧ル

丁九ノ如シ

一 千八百十年十月十五日ノ命令書及ヒ千  
八百十五年一月十四日ノ命令書禍災ヲ  
生ス可  
キ怒アル工場及ヒ人身ノ為ニ不便ヲ醸ス  
可キ工場ニ管スル規

一 千八百四十一年三月二十二日ノ法律作  
場内ニ於テザ年ヲ使役  
スルノ法ヲ定メタル者

一 千八百五十四年六月廿二日ノ法律工  
作  
簿冊ノミヲ規

一 千八百五十一年二月二十一日ノ法律授  
業



契約ノ法ヲ定  
メタルモ

一 千八百四十四年七月五日ノ法律新發明  
物專賣

免許ノ法ヲ定  
メタルモ

一 千八百五十七年六月二十三日ノ法律製  
造

ノ記号ヲ定  
メタルモ

一 千八百六十四年五月二十五日ノ法律工

等相借シテ其賃銀ヲ増ス罪ノ刑罰ヲ廢  
シテ工作自由ノ原理ヲ更ニ擴張シタル  
ノモ

如是ク工業ヲ規定スルニ種々ノ法律ヲ以テシ  
タルハ既歎ス可キトニシテ人ヲシテ容易ニ工

法ヲ知ル丁ヲ得カラシムルノ憂アリ依テ今之

ヲ証センカ為ニ姑ク当今ノ經濟家ルバソール

氏ノ論説ヲ左ニ引用ス者者乞フ之ヲ恕セン丁

ヲ

ルバソール氏ハ商法書編纂ノ事ヲ論シ而

曰ク我輩ハ商法書ノ範圍狭少ニ失シタルヲ

以テ參議院ヲ非難スルヲ得可ク抑モ當今編

纂ヲ要スルモノハ商法書ニ非スシテ却テ商

法ニ在リ何トナレハ商工ノニ法律ハ互ニ之

ヲ區別シ能ハサル丁往々之レアルト又敢テ

之ヲ區別スルヲ要セラルト許多ナレハナリ  
又高工ノニ法律ハ共ニ特設ノ法律ヲ以テ規  
定ス可キ特種ノ關係ヲ人ト人トノ間ニ生セ  
シムルカ故ニ此ニ法律ハ譯口之ヲ合シテ一  
本ト為シ以テ高工ニ者ヲシテ輒ク其權利義  
務ヲ知ラシムルト恰モ各人民ノ民法ニ依リ  
テ其權利義務ヲ了知スルカ如クナラシムル  
ニ如クサルナリト

予ヲ以テ之ヲ觀レハ右レバツリル氏ノ説ハ善  
ク其當ヲ得タルモノニシテ予モ亦之ニ左袒セ

ケルヲ得ス且假令其説ノ与否ハ姑ク之ヲ舍テ  
論セサルモ予カ讀者ヲシテ記念セシム可キ所  
ハ特リ商法書ニシテ其設ケアレト別ニ工法書  
ノ編纂ナキト工法ニ管スル諸件ヲ採索スル  
ニハ特別ノ法律ニ頼ララルトトハニ事ニ在リ  
トス

仙國商工法鑑卷之一

第一章

商業及び商人

仙蘭西商法第一條第六百三十二

條第六百三十三條

本章ノ區別

商法学ノ門ニ入ント欲スルニ方リテ須ク先ツ  
推究ス可キ事柄ハ商法ヲ以テ治ム可キ業即チ  
ト此商法ヲ遵守ス可キ人即チハ如何ノ者タル  
ヤラ會待スルニ在リテ此ニ箇ノ事柄ヲ論述ス  
ルハ即チ此章ノ本旨トス故ニ商業ト目ス可キ

事業及ヒ是ヨリ生スル條件ト商人ト称ス可キ  
者ノ性質トシテ此一章中ニ於テ掲述ス可キニ因  
リ此一章ヲ分ツテ二款ト為シ第一款ハ商業第  
二款ハ商人ノ事ヲ記スルニ供ス

第一款 商業

商業ノ本旨

商業トハ互ニ物ヲ交換シテ以テ其利益ヲ得ン  
カ為ノ天造又ハ人工ヨリ成ル物産ヲ交換シ又  
ハ其交換ヲ為スノ便利ヲ生マシムルヲ以テ其  
目的ト為ス処ノ種々ノ所業ヲ指シ言フニ在リ

トス

又商賣ノ目的ト為ス所ノモノハ消費品及ヒ高  
品ノ二者ニ在リテ消費品トハ人類畜類ノ日々  
ノ消費ニ供スル物品ヲ云ヒ酒類衣服等ノ如キ  
其中ニ在リ又高品トハ不動産(即チ家屋及ヒ土  
地等)ヲ除ク外凡ソ賣買貸借ヲ為シ得可キ諸種  
ノ品物ヲ指シ云フニ在リトス  
又商賣ハ物産ノ天造又ハ人造ニ係ルヲ問ハス  
皆等シク之ヲ為ス丁ヲ得可シ蓋シ人工ヲ以テ  
天造物ヲ製造スルニ在リ所ノ商賣ノ重大ナル

一種ハ之ヲ名ケテ製作工業ト云ニ其製作工業  
ヲ為ス者ヲ名ケテ製作又工人ト云フ

商賣ノ種類

商賣ハ之ヲ分ツテ大商賣即チ卸小商賣即チ賣及  
ヒ内國商賣外國商賣ト為ス而シテ大商人ハ物  
産ノ製出所又ハ物産ノ價廉ナル処ニ就テ物産  
ヲ買込ニ其價ノ貴キ地ニ之ヲ運輸シテ多量ニ  
之ヲ賣捌キ又ハ商人ハ大商人又ハ製造者ヨリ  
高賣品ヲ買入レ之ヲ店前ニ羅列シ買入ノ求ニ  
應シテ之ヲ小賣ニ為スナリ

又内國商賣トハ他國産ノ物品ヲ佛國ニ於テ賣  
拂フテ其目的ト為ス者ヲ云ヒ外國商賣トハ或  
ハ外國産ノ物品ヲ他國ニ齎シ来リ佛國ニ於テ  
之ヲ賣捌キ或ハ他國産ノ物品ヲ外國ニ運送シ  
テ之ヲ賣捌ク者ヲ云フ蓋シ外國商賣中右第一  
種ノ業ヲ輸入ト云ヒ右第二種ノ業ヲ輸出ト云  
フ

商業ノ義意

夫レ商賣ハ諸種ノ賣買一切ノ總稱ニシテ又其  
賣買一切ノ事業ヲ名ケテ商業ト云フ而シテ凡

ソ商賣ヲ為ス者ハ一人トシテ利益ヲ得ルノ目的アラサルハナク此目的アルハ即チ商業普通ノ本性ニシテ下ニ掲クル処ノ各種ノ事業ノ如キハ何レモ皆此性質ヲ具ヘサル者ナシ

再ニ賣却スル為メノ買入

商業中ノ最モ分明ニシテ解シ易キ者ハ諸消費品及ヒ商品ヲ買入レ利ヲ得テ之ヲ賣却スルニ在リトス故ニハ商人ハ大商人ヨリ若干ノ直段ニテ商品ヲ買入シ其後更ニ之ヲ買直段ヨリ賣キ價ニテ賣拂フヲ其業トシ又商品ヲ買入ル

者ノ其終ニテ之ヲ賣拂ハントスルモ又ハ其買入レタル物ノ形状ト種質トヲ變ヘタル後再ヒ之ヲ賣拂ハントスルモ其所業ニ於テハ共ニ皆同一ノ性質ニシテ此二箇中何レノ場合ニ於ケルモ其品物ヲ買入ル者ハ再ヒ之ヲ賣拂ハ其買直段ト賣直段トノ間ノ差ヲ以テ利ト為ス可キノ心匠ニアラサルナシ又商業トハ再ヒ賣却スル為メ物品ヲ買入ル者ノミラ去フニ非ス其物品ヲ人ニ貸シ又ハ其物品入用ノ者ノ需用ニ一時之ヲ供スル為メ物品ヲ買入ル者モ亦

商業ノ中ニ在リテ譬ヘハ何人ニ限ラズ公ケニ  
貸渡サシカ為ノ車ヲ買入レ又ハ貸觀場ノ用ニ  
供セシカ為ノ書籍ヲ買求ムルヲ如キモ亦商  
業ト為ス是レ益シ此等ノ者ノ書籍ヲ買入ル或  
ハ車ヲ買入ルハ再ヒ賣却ス可キ為メニアラ  
スト雖モ書籍又ハ車ヲ他人ノ需用ニ應シテ貸  
渡シ之カ為ノ利益ヲ得ント欲シテ買入ルヲ  
以テナリ

又上ニ及シテ地主耕作者葡萄植附人ノ已レカ  
土地ヨリ作り出シタル消費品即チ麥酒穀物ノ

如キ諸物ヲ賣却ク如キハ商業ノ本性ニアラス  
是レ此者ハ再ヒ賣却ク可キ為メ物品ヲ買入ル  
ハ丁ナク只自カラ作出シタル土地ノ産物ヲ賣  
却スル事ノミヲ以テ其目的ト為スニ因ル而メ  
又古ノ各人土地耕作ニ入用ナル諸物ヲ買入レ  
又ハ俵樽等ヲ買入レ穀物酒ト共ニ再ヒ之ヲ賣  
却クト雖モ是レ亦商業ト為ス可クラス是レ此  
等ノ物品ハ全ク麥及ヒ酒等ノ如キ消費品ノ附  
屬物ト為シテ之ヲ賣却ヒ初メヨリ利ヲ得テ賣  
拂フノ目的ヲ以テ之ヲ買入レシニ非ルニ因ル

又自分一己ノ用ニ供スル為メ或物品譬へハ車  
ヲ買求メ其後更ニ新ナル車ヲ買入ル、為メ又  
ハ其不用トナリタルカ為メ之ヲ賣拂フカ如キ  
ハ是レ亦商業ト為ス可カラズ何トナレ、此等  
ノ物品ハ全ク自己ノ用ニ供ス可キ為メ買入タ  
ルニ在リテ利ヲ得テ再ヒ之ヲ賣拂ハンカ為メ  
買入レタルニ非サレハナリ故ニ再ヒ賣拂フ可  
キノ心匠又ハ人ノ需用ニ供スルニ因リ利ヲ得  
可キ心匠ヲ以テ物品ヲ買入ル、ヲ第一種商業  
ノ本性ト為ス而シテ此第一種ノ商業ニハ別種

ノモノ許多相連属ス因テ逐次左ニ之ヲ掲述ス  
可シ

製作ノ業

前文記スル所ノ別種ノ商業中先ツ第一ニ製作  
ノ業ヲ掲述スルニ公益ノ為メ器械又ハ工了ヲ  
用ヒテ物ヲ製造シ其直打ヲ貴カラシムルハ即  
チ製作ノ業ナリ故ニ羊毛糸綿ヲ紡キニ衣物ヲ  
織リ又ハ鉄ヲ製シテ器械又ハ器物ヲ作ルカ如  
キハ製作ノ業タリ  
又製作者ハ生品ヲ買入レ後之ヲ製造シテ再ヒ



賣却スルヲ其業ト為ス丁アリ然ル時ハ上ニ論  
セシ如ク再ヒ賣却スル為メ物ヲ買入レタ  
即チ一箇ノ商業ヲ為ス者トス  
又製作者ハ已レカ製作ノ業ニ用フ可キ生品ヲ  
買入レサル時ト雖モ亦商業ヲ為ス丁アリ例ヘ  
ハ茲ニ及物商人アリ羊毛ヲ製シ之ヲ以テ及物  
ヲ織ラシメンカ為メ製作者ニ其羊毛ヲ與フル  
時ハ其注文ヲ受ケタル製作者ハ自カラ羊毛ヲ  
買入ル、ニ非ラス只已レカ器械及ヒ已レカ職  
人ヲ用ヒテ其羊毛ヲ製シ及物ヲ織ル可キ事ヲ

引受ケタルニ過キスト雖モ却テ商業ヲ為ス者  
トス何トナレハ其製作者ハ及物商人ヨリ受取  
リタル所ノ織手間料ノ金高ト自カラ拂オス所  
ノ工丁雇賃ノ金高トノ差ヲ以テ已レカ利益ト  
為シ其手間料ニ付キ利分ヲ得レハナリ

仲買人及ヒ商業世話人

次キニ仲買及ヒ商業世話ノ業アリテ此等ノ業  
ハ後文更ニ之ヲ詳カニス可シト雖モ左ニ其大  
畧ヲ掲述セントス  
凡テ商人ハ互ニ隔遠ノ地ニ在リテ互ニ相知ラ

サル者多クハ交換ヲ為ス丁カタク互ニ取引  
ヲ為ス丁ヲ得サルニ因リ商業上ニテ欠ク可  
クサル所ノ補助媒介人アルヲ待テ交換ス可  
ク而シテ其補助人媒介人トハ仲買人及ヒ商業世  
話人即チ之レナリ就中仲買人ハ賣主買主双方  
ヲシテ相交接セシムルノミニアラス自カラ商  
務ヲ取扱フモノナルニ依リ若シ賣方ヲ任セラ  
レタル時ハ自カラ其賣タル物品ヲ渡ス可キ義  
務ヲ擔当ス可ク又買方ヲ任セラレタル時ハ自  
カラ代金ヲ拂フ可キノ義務ヲ擔当ス可シ又仲

買人ハ商務調フタル上ニテ本人ニ對シ算計ヲ  
為シ本人ノ為メ受取リタル金高及ヒ商品ハ之  
ヲ本人ニ引渡シ自カラ拂出シタル金高ハ本人  
ヨリ其償還ヲ得テ而シテ仲買人ノ手数料ヲ受取ル  
ナリ  
商業世話人ノ仲買人ト異ナル所ハ商業世話人  
ハ只賣買双方ノ本人ヲ引合ハセ双方本人ノシ  
テ賣買ノ契約ニ管スル條件ノ取極メヲ為サシ  
ムルニ在リトス故ニ双方本人ノ相談ニテ其  
ノ箇條取極マレハ商業世話人ノ任務此ニ終リ

タルニ因リ其成リ行ノ如何ニ管シテハ自ラ  
其責ニ任ズルナリ又自ラ其義務ヲ負フ  
ナク双方ノ本人ノ間ニ於テ其契約ヲ施行ス可  
シ但シ商業世話人ノ其世話料ヲ得ルニ至リテ  
ハ仲買人ノ手数料ニ於ケルト異ナルナリ  
仲買人ノ從事セル業ヲ仲買ノ業ト云ヒ商業世  
話人ノ從事セル業ヲ商業管照ノ業ト云フ均シ  
ク皆商業ノ一種タリトス

運送受員及ヒ物品供給受員ノ業  
仲買人及ヒ商業世話人ノ業ニ次ケテ尚ホ一種

ノ商業即チ運送受員及ヒ物品供給受員ノ業ア  
リ今之ヲ左ニ略記ス

運送受員人モ亦重立チタル商人ノ中ニ在リテ  
即チ商品荷物又ハ旅客ヲ甲地ヨリ乙地ニ送ル  
ヲ業トスル者ヲ云フナリ蓋シ此類ノ受員人ヲ  
商人ト為セシ所以ハ運送ノ方便(車馬舟ノ)ヲ人  
ニ貸出ヘテ以テ若干ノ利益ヲ得レハナリ  
凡テ運送受員ノ業ハ其陸運ニ係ル者ト水運ニ  
係ル者トノ別ナク通シテ之ヲ商業ナリトス  
運送受員ノ業ヲ例証スレハ即チ陸運ニ就テハ

乗車荷車及ヒ鉄道會社ノ類ニシテ水運ニ就テ  
ハ航海及ヒ河川ノ通航ヲ業トスル者ノ類ナリ  
又物品供給受負ノ業トハ何人ヲ問ハス消費品  
及ヒ其他ノ物品ヲ取極メタル代價ニテ特定ノ  
期日間供給ス可キヲ擔任スルヲ云フナリ  
故ニ其受負人トハ例ハ公署或ハ國立又ハ邑  
立ノ学校等ニ毎歲必要ノ消費品(即チ炭油等)ヲ  
供給ス可キヲ擔任セル者ノ如キ是レナリ  
但シ物品供給受負ノ契約書中其最モ重要ナル  
者ハ諸般ノ公務(就中海陸軍)ニ心積ナル物品ヲ

供給ス可キヲ政府ト取結ヒタル契約ニ在リ  
ス蓋シ此契約ハ特別ノ規則ニ循フ可キ者ニ  
シテ此契約ニ因リテハ之ヲ結ビシ者即チ(受負  
人)ヲシテ(主)劇ノ義務ヲ負擔セシムルカ故ニ(臣  
シ)ク(次)章ニ讓リテ更ニ(其)率ヲ擴充説明スベシ  
為替手形ノ率差ニ為替及ヒ銀行  
ノ業  
為替手形並ニ為替及ヒ銀行ノ業モ亦商業中ニ  
屬スル者ナリ蓋シ為替手形ノ性質及ヒ為替手  
形ニ管スル法式並ニ其効債ハ當ニ後文ニ於テ

之ヲ詳説ス可シト雖モ今其大概ヲ言ヘハ為替  
手取トハ一種特別ノ法式アル證書ニシテ入  
シテ此手取ヲ記シタル所ヨリ更ニ他ノ場所ニ  
於テ金高ヲ受取ラシム可キ契約書ナリトス  
銀行ノ事業ニ之數ヶ所性質アリ雖モ等ヲ  
人ノ金ヲ預リ期限前ト雖モ都合ヲ得テ為替手  
取或ハ證券ヲ引替ヘ證券ヲ発行シ商人ニ資金  
ヲ融通スル等ニ在リトス  
又為替ノ業トハ例ヘハ外國ノ金貨ヲ外國ノ貨  
幣ニ引替ヘ又ハ甲ノ場所ニ在ルモノヲ乙ノ

場所ニ於テ金高ヲ受取ラシムルモノヲ為ス  
ニ在リ而メ為替手取ハ此事業中ノ第二旨ニ出  
ル者トス  
為替ノ業ヲ為スト雖モ右ノ利益ヲ得ル為メ之  
ヲ行フニ非サレハ之ヲ目シテ商業ト為ス可  
ス故ニ例ヘハ茲ニ人アリ其友ノ頼ニ應シテ銀  
行ノ證券ヲ正金ニ引替ヘ共フルカ如キハ商業  
ヲ為シタル者トス可カラス  
之ニ及シテ引替ヲ以テ常職ト為シ之カ為ニ利  
ヲ得ル者ハ之ヲ為替商人トス

特別ノ高業

上ニ掲クル所ノ外尚ホ特別ノ高業アリ之ヲ挙  
レハ高業取次ノ如キ即チ其中ス一ナリ  
高業取次ノ業ヲ為ス者ハ頼人アレハキ料ヲ  
受ケ本人ニ代リテ高務ヲ取扱ヒ又ハ貸方取立  
ヲ為シ又ハ本人ノ口入レヲ為シ又ハ不動産賣  
拂ニ付其買主ト世話シ又ハ高業資本金ヲ世  
話シ其他總テ委託ヲ受ケシ賣買取引ノ紹介人  
ト為ル等ヲ以テ其業トス  
又糶賣所戲場見セ物奏樂場ノ業又ハ船舶ノ構

造及ヒ其賣拂又ハ航海ニ係ル業又ハ船舶貸  
没船長水夫ノ傭入海上受員ヲ業トスル者ノ如  
キモ亦高業中ニ在リトス

与前高業ノ性質アル事柄ト高業  
ト看做不可キ事柄トノ差別

前文ニ説了シタル所ノ諸業ハ与前高業ノ性質  
ニ異スル者而チ高業ニニシテ其性質ヲ具スルヤ  
事業ヲ行フ人ニ管スル丁ナシ  
故ニ若シ常人高人者ヲ云フノ為替手形ニ手署シタ  
ル時ノ如キハ即チ其高業ヲ為セシ丁恰モ高人

ノ其年形ニ午署セシト異ナラサルナリ  
又其事業ノ本末ノ性質ニ就キテハ高業ニアラ  
スシテ之ヲ行フ人ノ如何ニ因リ高業ノ性質シ  
得ル者アリテ此類ノ者ハ高人之ヲ行ヘハ高業  
ト爲リ商人外ノ者之ヲ行ヘハ高業ト爲ラザル  
ナリ今其例ヲ舉ルニ商人ノ記セシ證券及ヒ條  
約書ハ高用ノ爲メニ記シタルモノト着做シ依  
テ以テ之ヲ高業上ノ証券ト爲スカ如キ即チ此  
類ナリ

然リト雖モ是レ畢竟最モ通常ノ身手ニ因リ法

律上ニ思料スル所ニ過キサレハ其景況ニ  
因リ又ハ其証券ノ本性ニ因リテ其契約ノ全ク  
高業外ノ事ニテ記シタルノ明証アル時ノ如キ  
ハ之ヲ高業上ノ証券ト着做ス可カラス  
故ニ商人自己ノ消費ニ供スル爲ニ酒薪ヲ買入  
レ又ハ其一己ノ住居及ヒ家族ノ住居ノ爲メ房  
室ヲ借受ケ又ハ歡樂ノ爲メ別荘ヲ借入ル、時  
ノ如キハ高業用ニ其買入レ又ハ借入レヲ爲サ  
ル丁判然ニシテ然ル時ハ高業ノ性質アラサ  
ル者トス

商業ノ效績

今一事業ノ其商業タルノ性質ヲ具スルニ因リ  
起ル所ノ特別ノ效績ヲ揚述スルノ時ニ至リタ  
レハ此ニ之ヲ舉ルニ(第一)商業ノ性質ヲ具スル  
事業ヲ行フニ付キ生シタル等ハ通常ノ裁判所  
即チ治安裁判所又ハ初告裁判所一名郡裁判所ニ非ラ  
ズシテ特設ノ裁判所即チ商法裁判所ニ於テ之  
ヲ審判ス可ク又其争ハ商人外ノ者ノ右ノ事業  
ヲ行フタルニ付キ起ル時ト雖モ亦同様ナリト  
ス

第一 商業上ニ管スル證據ハ民法上ニ於テ許認

セル所ノ方法例ハ賣買双方本人ノ間ニ在ル  
往復ノ書状及ヒ商業簿冊下ニ詳カナリノ類ヲ用ヒ得  
可キヲ以テ其通規トス

又民事ノ訴訟ニ就キテハ訴訟ノ本案而五十フ  
ラシク以下ノ金額ニ係ル者ニ非サレハ證人ノ  
申立ヲ以テ證據ニ立ル丁ヲ得スト雖モ商法裁  
判所ニ於テハ何程重大ナル訴訟タルモ証人ノ  
申立ヲ証證ニ立ル丁ヲ得可キモノトス

又千八百六十七年前ハ商法上ニ管スル二百フ



ランク以上ノ金高渡シ方ノ申渡ヲ執行セシム  
ルニハ本人ヲ禁錮スルヲ得タリシカ同年七月  
廿二日ノ法律ヲ以テ裁判執行ノ為メノ禁錮ノ  
法ヲ廢シタリ

第二款 商人

商人タルノ分限ヲ組成スル性質  
商業ノ本性ト其效績トノ二項ハ前款既ニ之ヲ  
説述シタルニ因リ今如何ノ微證如何ノ性質ヲ  
以テ人ノ商人タルヲ認め可キヤヲ論セントス  
例ハ茲ニ人アリテ一ケ又ハ數ケノ商業ヲ為

スト雖モ猶ホ未タ之ヲ以テ商人ト認め可ラス  
其商業ヲ為スヤ之ヲ継行シテ日常ノ事トシ且  
之ヲ行フ丁ラ世ニ公ケニ為スヲ要ス可シ故ニ  
概シテ之ヲ言ヘハ商業ヲ以テ其常業ト為ス者  
ヲ商人ト為ス可キナリ  
商人ハ特別ノ義務ト特別ノ規則トニ循フ可キ  
者ニシテ例ハ商業ニ管スル各種ノ簿冊下ニ  
詳カニ  
リテ設ケ置ク可ク又婚姻契約書ヲ公ケニス可  
キカ如キ規則ヲ守ル可キ者トス  
又商人ノ為セシ諸契約ハ商業ノ為ニ取結ビタ

ルト者做ス可ク因テ亦之ヲ商業上ノ契約ト者  
做ス可シ

若シ商人其契約ヲ履行セサル時ハ家資分散ノ  
申渡ヲ受ク可シ而シテ商人ニ管スル特別ノ分  
散ニ付テハ其分散人ノ身上ニ至重ノ影響ヲ生  
ス可キ丁ヲ後ニ揭ントス

製作者大小商人及ヒ職工ノ語意  
此書中ニ用フル商人ト云ヘル語ハ法律上ノ語  
ニシテ即チ商業製作ノ種類ト其大小トヲ區別  
セス總テ商業ヲ行フ者ヲ指言スルニ在リ

故ニ仲買人、銀行主人、商業世話人、船ノ持主、製作  
者ノ如キハ何レモ皆商人ニシテ純粹ノ商人即  
チ高品ノ賣買ヲ業トスル者ト全ク同一ナリト  
ス

然レは日ニノ慣習ニ於テハ各種ノ商人ヲ指言  
スルニ種々ノ語ヲ用フ今其一例ヲ掲クレハ卸  
賣ヲ為ス者ヲ「子ゴシアント」ト云ヒ小賣ヲ為ス者  
ヲ「マルシヤント」ト云ヒ又工丁及ヒ器械ヲ用ヒテ  
物品ノ形状及ヒ其種質ヲ變造スル者ヲ製作者

「ガアブクリカニ一名「マ  
ニエアブクリエリ」ト云フカ如シ

又製作者ト職エトハ自カラ其區別アリテ之ヲ  
混同ス可ラス製作者ハ商人タリト雖モ職エハ  
然ラサル者トス是レ譬ヘハ人ノ註文ヲ受ケ其  
勞カノミヲ用ヒ人ヨリ受取リタル物件ヲ以テ  
或ル物品ヲ製作スル者ノ如キハ商人ト着做ス  
可カラサルト明カナレハナリ

然レモ自カラ生活ヲ恰シ保セテ亦其勞カヲ用  
ヒテ物品ヲ製造スル者ノ如キハ之ヲ商人ト區  
別スルト太夕難シ依テ案スルニ人ノ注文ヲ受  
ケ一身ニテカ作シ其製出シタル物品ニ付キ利

分ヲ得ルトナク其勞カノ報銀ノミヲ得ル者  
ハ之ヲ商人中ニ列ス可カラサレハ是等ノ者ハ  
商人及ヒ製作者ノ各義ヲ附ス可ラス只之ヲ尋  
常ノ職エト為ス可キノミ

附録

物品供給及ヒ共同工業ノ受負契約ノ  
事

物品供給ノ受負契約ト共同工業  
ノ受負契約トノ區別

本章中前文ニ於テ政府ト平民トノ間ニ取信フ  
受負契約ノ略解ヲ為セシカ今又此附録中ニ其  
事ニ管スル特別ノ規則ヲ掲述セントス

受負ノ契約ハ之ヲ分ケテ二種トス即チ其一ハ  
諸公務ニ必須ナル消費品及ヒ其他ノ物品ヲ供  
給ス可キ丁ラ人民ヨリ政府ニ對シ契約シタル  
者ニシテ之ヲ各ケテ物品供給ノ受負契約ト云  
フ今其一ニノ例ヲ舉レハ兵隊ノ食糧及ヒ一切  
ノ軍裝品ノ供給軍艦ノ製造及ヒ其機裝ノ受負  
水夫ノ賄方受負等皆此類ナリ又一ハ共同ノ諸

工業

道路橋梁  
城砦等

ノ執行ヲ引受ク可キ契約ニシテ  
之ヲ各ケテ共同工業ノ受負契約ト云フ

物品供給ノ請負契約式及ヒ請負  
入札ノ事

物品供給ノ請負契約書ハ政府ニ代リテ宰相州  
長、建築長及ヒ各公務ノ長之ヲ記ス可シ  
普通ノ規則ニ循ヘハ其契約ハ公ケノ入札法ヲ  
以テ之ヲ定ムルヲ例トス但シ時アリテハ又例  
外ノ事アリトス  
入札法ヲ行フニハ預メ一定ノ期日間貼附書ヲ

以テ之ヲ公告シ又請負ノ箇條ヲ示ス為ニ請負  
箇條書ヲ作ル可シ但シ官府ハ請負契約ヲ相与  
適宜ニ執行フ丁ラ得可キ身分ノ者ニ非サレハ  
入札ヲ為スヲ許サス  
落札ハ其金高ノ最モ廣ナル者ニ定ム  
入札ニ加ハルニ必須ノ條件ハ受負箇條書ニ之  
ヲ指定シタルカ故ニ若シ箇條ヲ踐行セサル者  
ハ直ニ排除セラル可シ  
落札人ハ其契約ノ執行ヲ完全ナラシムル為メ  
ノ保證ヲ立ツ可シ但シ其保證トハ若シ落札人

契約ノ執行ヲ完成セサル時政府ニ對シテ其償  
ヲ出シ得可キ資産アル者ヲ保証人ニ立ル也若  
クハ金高ヲ官府ニ預クルカ又ハ已レノ不動産  
ヲ書入質ニ為ス歟ノ中ニ在リトス

官府ト落札人ノ差異

落札人ハ落札トナリシ事ノミヲ以テ官府ニ對  
シ其責ヲ受ク可ク官府ハ然ラズ當管ノ官吏<sub>ニ殊</sub>  
相<sub>享</sub>ヨリ落札ノ許可ヲ與ヘタル上ニ非サレハ落  
札人ニ對スル義務アル丁無シ又假令落札ノ後  
ト雖モ若シ宰相落札ノ許可ヲ為サレハ金ク

落札ヲ為サバレルモノト看做シ落札人決シテ故  
障ヲ申立ルコトヲ得ス

落札人ノ義務

一旦落札ノ許可アリシ時ハ物品供給ノ請負人  
ハ請負箇條書ニ在ル規則ニ照準シテ必  
契約ヲ履行ス可シ故ニ若シ其契約ノ箇條ヲ行  
ハサル時ハ其請負人ヲ廢スルノ權ハ常ニ官府  
ニ在リトス

又請負人ハ約定シタル期限間必ス其契約ヲ定  
践ス可シト雖モ官府ハ然ラズ若シ物品供給ヲ

要セサル情實アルニ於テハ其期限ト雖モ請負  
人ニ相當ノ償ヲ與ヘテ其契約ヲ廢棄スルコトヲ  
得可シ但シ其償ハ請負人ノ入費ヲ償フノミニ  
在リテ若シ契約ヲ廢棄セサレハ為メニ請負人  
ノ得可キ若干ノ利益並ニ笑討シテ之ヲ償フニ  
ハ非ザルナリ

請負人其義務ニ背キシ時ノ處置

受買人若シ契約ノ執行ヲ遲延シタル時ハ既ニ  
供給セシ物品ノ代價中其一部ノ渡シ方ヲ差出  
ムノ權官府ニ在リトス但シ其差出金ノ額ハ受

買箇條書ニ之ヲ預定スルヲ常トス  
請負人契約ヲ執行セサル場合ニ於テハ其契約  
ノ取消ヲ申渡シ官府更ニ他人ト契約ヲ結ビ若  
クハ更ニ第二次ノ入札ニ取掛ルヲ得可シ  
官府契約ノ取消ヲ申渡シ更ニ他人ト契約ヲ結  
ビ又ハ第一次ノ入札ヲ為サシメシ時第二次ノ  
契約又ハ第二次ノ入札ト第一次ノ入札ト、差  
アレハ請負人其差ノ償ヲ引受ク可シ  
又官府若シ損失ヲ受ケタル時ハ請負人ヨリ差  
出シタル保證ヲ以テ其償ヲ得可シ

又海陸軍ニ入用ナル物品供給ノ義務ヲ欠キ又  
ハ其義務ノ執行ヲ怠リシ受負人ノ刑法ニ定ム  
ル所ノ嚴刑ニ處セラル可キハ後文更ニ之ヲ説  
ク可シ

物品供給請負人ト官府トノ間ニ  
生シタル争及ヒ其裁判管轄

若シ官府ト供給請負人トノ間ニ争ヲ生セシ時  
ハ其請負ヲ命セシ官局ヲ管理スル宰相之ヲ裁  
判ス可シ但シ其裁決ハ之ヲ參議院ニ控訴スル  
ヲ得可シ

州邑ニ於テモ亦物品供給ノ契約ヲ結ブ<sub>ル</sub>ヲ得  
可シ

前文ニ記載シタル諸規則ハ政府ノタメノ為シタ  
ル受負、契約ニ管スル処ナリト雖モ州及ヒ邑  
ノタメ為シタル契約ニモ亦均シク之ヲ適用ス  
ル<sub>ル</sub>ヲ得可シ只其互ニ差異アル所ハ爭ヲ生セ  
シ時ノ裁判管轄ノ異ナルニ在ルノミ故ニ州ニ  
管スル物品供給ノ請負契約ニ係ル争ハ内國事  
務宰相之ヲ裁判シ其裁判ハ之ヲ參議院ニ控訴  
スル<sub>ル</sub>ヲ得可ク邑ニ管スル物品供給ノ請負契

約ニ係ル争ハ通常裁判所(即チ初告裁判所)ニ於  
テ之ヲ裁判ス可シ

共同工業ノ請負契約式、其入札  
為スニ必須ノ條件、及ヒ請負箇條  
書ノ事

共同工業ノ請負契約トハ其目的公益ノ請工業  
道路橋梁公用ニ供<sub>ス</sub>ル諸局ノ造管等ヲ執行スルニ在ル所ノ契約  
ヲ云フ

共同工業ノ請負契約ハ入札ヲ以テ為テシムル  
ヲ通規トス而シテ此入札ニ加ハラント欲スル



者ハ建築者ノ授與シタル免狀ニ依リテ其能力ヲ証ス可ク又金高若クハ國債証書ヲ其保証トシテ差出ス可シ  
右落札ハ必ス其當管官署ノ許可ヲ受ク可ク若シ其許可ヲ得サル時ハ其落札ノ効ナキ者ニシテ其落札人ハ之レカ償ヲ得可キノ權ヲシ  
受負契約ノ條件ハ總テ之ヲ受負箇條書ニ明細ニ記載ス可シ而シテ請負人ハ其箇條書ニ記シ別段ノ箇條ノ外下文ニ掲クル所ノ通規ヲ遵守ス可キモノトス

工業請負人ノ義務

工業請負人ハ左ノ義務ヲ行フ可シ  
一 官府ヨリ指定シタル期日ヲ以テ工業ヲ始ム可キ事  
一 其工業ニ必用ナル大ケノ工丁ノ員數ヲ斷ニス差出ス可キ事  
一 請負箇條書ニ定メタル材料ヲ用ヒテ其指令ト雛形トニ準シ工業ヲ施行ス可キ事  
又工業請負人ハ官府ノ許可ヲ得タルニ非サレ

ハ其工業ノ一分ヲ下請負人ニ任カス。了ラ得可  
ラス又。豫定シタル受負書及ヒ。雜款ニ照準ス可  
ク其指揮ヲ為ス所ノ建築官ヨリ渡シタル指令  
書アルニ非レハ一モ之ヲ變更ス可カラス  
官府若シ其工業ヲ曾テ豫定セシ所ヨリ更ニ大  
ナラシメ又ハ更ニ小ナラシムル了ラ必要ナリ  
ト思フ時ハ請負人ハ新ニ渡リタル指令書ニ  
從テ之ヲ執行ス可シ然レモ其變更シテ増大セ  
シ了請負工業ノ六分一ニ過クル時ハ請負人ヨ  
リ契約ノ取消ヲ求ムル了ラ得可ク又其變更シ

テ減小セシ了六分一ニ過クル時ハ其償ヲ求ム  
ル了ラ得可シ

工業請負契約取消ノ事

官府ハ常ニ工業ヲ廢止シ或ハ之ヲ延引スル了  
ヲ得而シテ官府工業ヲ廢止スル時ハ当然其請  
負ノ契約ヲ取消ス可シ然レモ官府若シ一年以  
上其工業ヲ延引セシ時ノ如キハ工業請負人ヨ  
リ契約ノ取消ヲ求ムル了ラ得可シ  
請負人ハ右ニ箇中何レノ場合ニ於テモ其  
損害ヲ償ヲ求ムル了ラ得可シ

工業施行ノ為ニ定メタル價直ハ請負人ノ一度  
之ヲ兼諾セシ上ハ更ニ故障ヲ申述テ之ヲ變ス  
ルコヲ得ス然レモ其工業ノ未ク落成セサル中  
ニ物料ノ價直着シク騰貴シ其騰貴ノ高ハ残リ  
工業ノ全價ノ六分一上ニ及フ時ハ請負人其契  
約ノ取消ヲホムルコヲ得可シ

吏負ニ任シテ工業ヲ施行セシム  
ル事

若シ工業請負人其工業ヲ急慢スルカ若クハ其  
雛形ニ背キ官府ノ指揮ニ従ハサル時ハ州長命

ヲ下シテ之ヲ督責シ請負人ヲシテ其義務ヲ尽  
カシム可ク而シテ若シ十日以上ノ猶豫期限リ  
既ニ滿ツルト雖モ請負人猶ホ其義務ヲ盡サ  
ル時ハ州長更ニ吏負ニ任シテ其工業ノ施行ヲ  
継カシムルコヲ得可シ

若シ此法ニ因リテ工業ヲ施行シ其費用ノ請負  
人入札ノ價額ヨリモ更ニ増加スル時ハ工業請  
負人ハ其差分ヲ償フノ責ニ任ス可ク若シ之ニ  
反シテ官府其工業ヲ施行シ其費用ノ請負人入  
札ノ價額ヨリ更ニ減スル時ハ其益ヲ得ル者ハ

独り官府ニ在リテ請負人ハ之カ為ニ其益ヲ受  
ク可カラス

但レ州長ヨリ工業施行ノ事ヲ吏負ニ任シタル  
後ハ更ニ其旨ヲ官ノ宰相ニ上申ス可シ而シ  
テ工業請負ノ契約ヲ取消シ或ハ請負人ハ引受  
ニテ更ニ入札ヲ為サシメ或ハ吏負ニ任シテ工  
業ヲ施行セシムル与官宰相ノ決ニ任カス可シ  
右ノ場合ニ於テモ工業請負人猶ホ其工業ヲ継  
行シテ之ヲ完成スルニ必要ノ資カアルヲ辨明  
スル時ハ官ヨリ吏負ニ任シテ工業ヲ施行セシ

ムルヲ止ムルヲ得可シ

抗拒ス可カラサル災難ニ就テノ  
償

天大洪水等ノ如ク抗拒ス可カラサル災難ノ為  
ノ損害ヲ受ケタル時ハ請負人其償ヲ求ムル  
ヲ得可シ但レ之ヲ求ムルニハ吏負ヨリ其災害  
ノ檢視ヲ受ク可ク且其災害ニ遇レシ日ヨリ十  
日内ニ其償ヲ要スル願書ヲ出ス可シ

工業請取方及ニ其代價ノ拂方

工業落成スレハ建築官假リニ之ヲ請取ルノ事

償ヲ為ス可シ蓋シ此假リ請取ノ主意ハ工業ノ  
完成ヲ證明シ其重大ノ標度ヲ檢視シ其施行上  
不良ノ箇所ナキヤ否ヤヲ查察スルニ在リ  
工業ノ種類ニ因リ右ノ工業假リ請取ヨリ六ヶ  
月或ハ一年間ノ期限ヲ以テ擔保期限ト為シ此  
期限内ハ工業請負人其工業ヲ補理修復スルノ  
責ニ任ス可ク此期限既ニ滿ケタル後ハ再ノ請  
取ノ手續ヲ為ス可シ  
若シ施行上不良ノ箇所アル時ハ工業請負人自  
費ヲ以テ其不良ナル箇所ヲ改作スルノ責ニ任

ス可シ

工業代價ノ内全額十分ノ九迄ハ工業施行中ニ  
テ請負人ニ渡ス可シト雖モ残り十分ノ  
一ハ工業真請取ノ後ニ非ナレハ決シテ之ヲ拂  
ハサルヲ定則トス

工業施行ニ就テノ願及ヒ訴是ニ  
其訴ノ裁判官

工業請負人請取セント欲スル事有レハ先ツ之  
ヲ建築長ニ願出ツ可シ若シ建築長其願ヲ受理  
セサル時ハ更ニ之ヲ州長ニ願フ可シ

若シ官ト請負人トノ間ニ訴訟ノ起ル時ハ工業  
 請負人其請状ヲ各事院ニ出ス可シ是レ各事院  
 ハ官ト請負人トノ間ニ生シタル訴訟ヲ審判ス  
 ルノ職務アルヲ以テナリ但シ同院ノ裁決ニ服  
 セサル時ハ更ニ之ヲ各議院ニ控訴スルヲ得  
 可シ

第二章

災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害ヲ醸

シ或ハ人ノ健康ヲ害ス可キ

書造物ノ命、十年十月十五日

年三月二十三日ノ命、十八年五月十二

同上建造物三等ノ區別及ヒ其例

工業製作自由ノ原理ハ我カ國法制ノ基礎タリ  
 ト雖モ亦之ヲ制限スル所アルハ蓋シ已ムヲ得  
 サルニ固ルナリ而シテ其制限中吾人ノ為メ最  
 モ重大ナル者ハ即チ災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害  
 ヲ醸シ或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ建造物ニ在  
 リトス  
 工業製作ハ其種類ニ由リテハ是ヨリ破裂出火  
 等ノ危難ヲ生シテ近隣ノ安全ヲ害スル者アリ  
 或ハ劇音臭気ヲ發シテ人ノ妨害ヲ為ス者アリ

或ハ人身ノ健康ヲ害スル者アリ故ニ此種類ノ  
建造物ハ特別ニ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ  
設クルヲ得ス且ツ假令一旦之ヲ設ケタルモ  
始終官府ノ監督ヲ受ク可シ  
但シ古ノ建造物ハ均シク皆重劇ノ妨害ヲ生ス  
ル者ニ非ス故ニ其類ニ從テ之ヲ三等ニ區別ス  
ルヲ左ノ如シ

第一等ノ建造物ハ其惡臭ヲ放テ或ハ其災害ヲ  
生スル故ヲ以テ人家ヨリ遠サク可キ者トス即  
チ

一 屠獸場 是レ近隣ノ用水ヲ腐敗セシメ  
或ハ疾病ヲ醸ス可キ臭氣ヲ發スルヲ  
以テナリ

一 硫酸製造所 是レ其臭氣ノ人身ノ健康  
ヲ害スルカ故ナリ

一 花火製造所 是レ其破裂シ又ハ火災ヲ  
生スルノ怨アレハナリ

第二章ノ建造物ハ必スシモ人家ヨリ遠サクル  
ヲ要セスト雖モ近隣ノ妨害ヲ為サス又ハ災  
禍生セサル様注意シテ事業ヲ行フ旨ヲ取調ヘ

タル後ニ非サレハ之ヲ設クル丁ヲ訂サ、ル者  
トス即チ

一 燈火用製造所 是レ其臭氣ヲ発スルト

大災ノ恐アルヲ以テナリ

一 砂糖製造所 是レ其臭氣ト煙氣トニ

由テ人ノ不便ヲ生スレバナリ

一 鍛冶場及ヒ鉄銅器製造所 是レ其煙惡

ス可キ響音ノ劇動ヲ発シテ時アリテハ

隣人之ニ堪ル丁能ハサレハナリ

第三等ノ建造物ハ唯人ノ妨害ヲ為スノミニシ

テ毫モ危難ヲ生シ或ハ人身ノ健康ヲ害スル丁  
無キ者トス即チ

一 麦酒製造所

一 浣衣場

一 羊毛、馬毛、鳥羽等ヲ打チ、之ヲ梳キ及ヒ之

ヲ清淨ニ為ス製作場

災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害ヲ醸シ

或ハ人身ノ健康ヲ害ス可キ建造

物ノ種類分ケ及ヒテ八百六十六

年十二月三十一日ノ勅命



災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害ヲ醸シ或ハ人身ノ健  
康ヲ害ス可キ建造物ノ表ハ千八百十年ト千八  
百十五年トノ兩次ニ之ヲ作り其後亦數次ノ勅  
命書ヲ以テ種々ノ工業製作業ヲ右兩次ノ表ニ  
追加シ又新ニ起創セル工業製作ノ如キハ假リ  
ニ宰相又ハ州長ノ命令書ヲ以テ其種類ヲ定メ  
タリ而シテ更ニ其完全ナル種類分ケヲ為セシ  
ハ實ニ千八百十六年ニ在リトス  
凡テ災禍ヲ生シ或ハ人ノ妨害ヲ醸シ或ハ人身  
ノ健康ヲ害ス可キ建造物中ニ編入シタル諸般

ノ工業製作ノ類ハ千八百十六年十二月三十  
一日ノ勅命ニ添フタル表ニ之ヲ掲載シ又其表  
ニハ依セテ其種類ヲ定メタリ但シ此制度ヲ設  
ケタル所以ハ農商工部宰相ヨリ帝ニ奏シタ  
ル申報書中ニ詳カサレハ左ニ其文ヲ掲ク  
工業製作ノ評議委員大ニ諸般ノ工業製作ニ  
於ケル當今ノ景況ヲ注視シテ其近隣ノ為メ  
ニ妨害アル否ヤヲ検査シタルニ近年種々ノ  
原因ノ為メ工業製作ノ法方大ニ改良シ曩キ  
ニ危難妨害アル種類中ニ加ヘシ者ト如キモ

今ハ既ニ其恐レナク又ハ其恐少ナキニ至リ  
シ者敢テ寡ナカラス而メ之ニ及セシ景況ニ  
至リシ者ノ如キハ極メテ稀ナルヲ知リタレ  
ハ従前既ニ確定シタル種類分ケト假リニ定  
メタル種類分ケトテ廢棄シ之ニ代アルニ新  
製ノ表ヲ以ラシテ特ニ當今ノ状態ニ於テ直  
ニ災禍ヲ生レ或ハ人ノ妨害ヲ醸シ或ハ人身  
ノ健康ヲ害ス可キ工業製作ノミヲ其表中ニ  
擧ケタリ蓋シ此新表ニハ新タニ加入セシ者  
アリテ僅カニ二三ノ種類ヲ増セシト雖モ既

ニ確定シ又ハ假定セシ種類分ケノ中ヨリ全  
ク除キタル工業製作ノ種委ハ一而種以上ニ  
及ヒ又等級ヲ下タシタル工業製作ノ種類ハ  
哉ント八十種ニ及ヒ而メ期ク決定ヲ為スト  
雖モ之レカ為メ權利ニ於テハ一モ之ヲ害ス  
ル所ナキヲ待タリ又此起草ノ制度ニ依レ  
ハ工業製作者ノ官許ヲ乞フ可キ場合ヲ減シ  
又官ノ許可ヲ受ク可キ場合ニ於テモ其各等  
ノ工業製作ヲ掲ケテ一表中ニ集稱シタルヲ  
以テ各種ノ工作者ヲシテ一目瞭然タラシム

ルノ便布將ニ辨サナラリル可ク  
千八百六十七年一月十日

六日ノ官報新聞紙  
中ヨリ之ヲ抄出ス

右建造物ノ區別ハ願ル緊要ノ丁ナリトス何ト  
ナレハ其種類ニ從テ其許可ヲ得ルノ法式及ヒ  
成規ノ互ニ相異ナルヲ以テナリ

第一等ノ建造物設立許可ノ願

第一等ノ建造物設立ノ願ハ巴里及ヒセイヌ州  
ニ於テハ警察總長之ヲ許可シ其他ノ諸州ニ在  
テハ該州ノ長之ヲ許可ス然レテ其設立ノ許可  
ヲ受ケント欲スル工業製作者ハ其願書ニ建造

物設立ノ場所及ヒ其目的タル事業ノ種類並ニ  
其設立ニ由テ生ス可キ災害防制ノ方法等ヲ明  
細ニ記シ且其建物ノ内外ノ模様ト其最近ニ在  
ル人家ノ位置トヲ寫シクル繪圖面ニ通テ其願  
書ニ添ヘテ之ヲ州長ニ差出ス可シ

第一等ノ建造物設立願ニ就テノ

貼附書利害ノ取調及ヒ州長ノ命

令

第一等ノ建造物設立ノ願ハ其設立ノ地ヲ去ル  
丁五丁キロノトト以内ニ在ル諸邑ニ貼附ヲ為シ

テ之ヲ公告ス可レ但シ之ヲ貼附スルハ一月間  
ニシテ既ニ一月ヲ越エレハ則チ利害取調ト称  
スル一種ノ取調ニ着テシテ其設立ニ就テノ利  
害ヲ檢視ス可レ

如是ク利害ノ取調ヲ為スハ其設立ノ可否ヲ審  
判スル基礎タルヲ以テ頗ル緊要ノトス而シテ  
其取調ハ建造物設立ノ地ノ邑長之ヲ為シ巴里  
ニ於テハ警察官之ヲ為ス可レ

建造物設立ノ地ニ接近シテ其建造ノ為ニ災禍  
ヲ蒙ル可キ恐アル者ハ其利害ノ取調ニ參ス

可キ拒キテ受ケ口上或ハ書面ヲ以テ各自ノ意  
見ヲ陳述スルヲ得可シ

邑長ハ自カラ其意見ヲ述ヘ且調書ヲ作りテ之  
ニ出席人ノ異存又ハ同意ノ旨ヲ記シ又当日出  
席セサル者アラハ其姓名住所ヲ記ス可シ

同上ノ調書ハ邑長ヨリ之ヲ州長ニ送付シ州長  
ハ之ヲ該郡ノ保健議會ノ議ニ付シタル後其設  
立願ニ就テノ處分ヲ為ス可シ

特ニ等ノ建造物設立ノ願、利害ノ

取調及ヒ州長ノ命令

第一等ノ建造物設立ノ願書ハ總ラ郡長ニ  
出ス可ク州ノ首地ニシテ郡長ナキ郡ニ於テハ  
之ヲ州長ニ出ス可シ但シ巴里及ヒセイヌ州ニ  
於テハ之ヲ警察總長ニ出ス可キ者トス而シテ  
其願書ニハ建造物設立ノ場所ト其事業ノ種類  
トヲ詳記シ且之ニ繪圖面ヲ添フ可シ

郡長ハ其願書ヲ邑長ニ送付シ之ヲシテ其設立  
ニ就キ其利害ノ取調ニ着手セシム  
利害ノ取調ハ先ツ貼附書ヲ以テ公告スルニ及  
ハス又其調書ハ邑長ヨリ之ヲ郡長ニ出シ郡長

之ニ意見書ヲ添ヘ從テノ書類ト共ニ之ヲ州長  
ニ送附ス可シ然ル上之ヲ許可スルト否ラサル  
トハ特ニ州長ノ權ニ在リトス

第三等ノ建造物設立ノ願及ヒ其  
許可ノ式

第三等ノ建造物設立ノ願書ハ之ヲ郡長ニ出ス  
可ク州ノ首地タル郡ニ於テハ之ヲ州長ニ出ス  
可シ但シ巴里及ヒセイヌ州ニ在テハ之ヲ警察  
總長ニ出ス可シ然ルニ其許可ヲ為クハ古ノ區  
別ニ從ヒ郡長若クハ警察長ニ在リトス

第三等ノ建造物設立ノ願ニ就テ、預メ利害ノ調査ヲ為スニ及ハス又貼附書ヲ以テ公告ヲ為スニ及ハス郡長ハ唯邑長及ヒ該地ノ警察官ノ意見ヲ聽クノミニテ其許可ヲ決ス可シ

建造物設立ノ願ヲ付ケラレタル

工業製作者ノ訴

建造物ノ種類如何ニ關セス凡テ其設立ノ願ヲ付ケラレ其許可ヲ得ル時ハ更ニ之ヲ訴フルコトヲ得可ク故ニ工業製作者若シ其官官吏ノ由縁ナク許可ヲ與ヘザリシト思量スル時ハ之

ヲ訴ヘテ其決ニ抗スルコトヲ得可シ但シ第一等第二等ノ建造物ニ係ル時ハ其願ヲ付ケタル州長ノ指令書送達ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ參議院ニ告訴ス可ク若シ第三等ノ建造物ニ係ル時ハ之ヲ參事院ニ告訴ス可シ

建造物設立ニ就キ異存ノ申立及

參事院ノ審判

建造物設立ノ許可ヲ受ケント欲スル工業製作者ノ履行ス可キ法式ハ前文既ニ之ヲ説了シタルヲ以テ後文其建造物ノ近傍ニ在ルカ為ノ害

ヲ受ク可キ旨ヲ申立テ其免通知ノ設立ニ付キ  
故障ヲ為サントスル者ノ履行マ可キ諸件ヲ論  
述セントス  
建造物設立ノ事ニ付キ異存ノ申立ヲ為サント  
欲スル者ハ先ツ其利害ノ取調アリシ時其旨ヲ  
申立テ之ヲ調書ニ記セシム可シ然レモ差シ之  
ヲ記セシメサル時ハ直ニ州長ニ宛テ其異存書  
ヲ差出スヘシ

既ニ建造物設立ノ許可アリシ時ハ寧ラ利害取  
調ノ時異存ヲ申立サル者ト雖モ其許可ノ取

ヲ參事院ニ訴フルヲ得可シ然レテ之ヲ訴フ  
ルニハ其期限ノ定リナク本人代書人若クハ各  
代人ノ鈐印シタル願書ヲ參事院ノ書記局ニ出  
ス可ク又此訴ニ就テノ參事院ノ裁決ハ更ニ之  
ヲ參議院ニ上告スルヲ得可シ

右建造物設立ニ就キ故障ヲ申立ルヲ得可キ原  
由ハ只其建造物ノ性質ニ依レル事由即チ其危  
険ナル事人身ノ健康ヲ害スルヲ及ヒ近傍ノ不  
便ヲ生スル事ノ三者ニ過キタル可シ故ニ其他  
ノ事由ニ基キタル異存ノ申立ハ何等ノ事故ヲ

リに其効アル丁無ク例ハ自カラ此類ノ建造物ヲ所有スル者ノ更ニ他人ノ其近傍ニ於テ新タニ其建造物ヲ設立スル為メ已レノ利ヲ失ハシテ其建造物ヲ設立ル如キハ采レテ其採用ナキ丁敷ヲ疑フ容レス

建造物設立ノ許可ヲ與フル成規ニ業製作所ノ取締及ヒ罰則

建造物設立ノ許可ハ工業製作ニ因リ生ヌ可キ危難妨害ヲ減少シ又ハ之ヲ消除スル為ニ規定セシ一定ノ成規ヲ踐ムニ非サレハ之ヲ與フ可

ラサル者トス然レテ其成規ハ建造物ノ種類ニ從ヒ各異ナリ例ハ第一等ノ建造物ニ係ル時ハ人家ヲ去ル丁若テノ距離アルニ非サレハ之ヲ許可セズ又其距離ハ其地ノ景況ニ從テ各異ナレカ如シ

總テ工業製作場ヲ設立スルニハ必ス火焚所高キ煙出レ、汚物ヲ流ス為メ下水完全ナル圍鏡等ヲ設ク可キヲ通則トス

第一等ノ建造物ハ假令一旦其許可ヲ與ヘタリト雖モ若シ人ノ健康ヲ害シ或ハ耕作ノ業ヲ妨



ケ或ハ一般ノ公益ヲ害スル如キ一大妨害ヲ生  
スル時ハ本該院ノ議ニ付シタル勅命ヲ以テ之  
ヲ禁スルヲ得可シ但シ第一等第二等ノ建造  
物ハ此例ニ非ス  
建造物ハ一旦許可ヲ受ケタル後モ尚ホ官府ノ  
監督ヲ受ク可キ者トス蓋シ其監督ノ主旨ハ其  
許可ヲ得ルニ付キ必要ト為セシ一定ノ成規ヲ  
履行スルヤ否ヲ検査シ且營業中不意ノ災害ヲ  
生セレメサレニ在リトス  
工業製作者ノ官許ヲ受ケスシテ建造物ヲ設立

セシ時又ハ其許可ノ指令書ニ定メシ規則ニ背  
キタル時ハ州長或建造物ヲ閉ツ可キヲ申渡  
スヲ得可シ  
若シ建造物ヲ他ノ地ニ移シ若クハ六月間其營  
業ヲ停止シタル時ハ既に許可ヲ得タル者ト雖  
モ其効ヲ失フ可シ故ニ此二箇ノ場合ニ於テハ  
更ニ復タ其許可ヲ受ク可キ者トス  
右ノ成規ニ循フ可キ建造物ヲ許可ナクシテ設  
立シ若クハ許可ノ指令書ニ定メシ條件ニ背キ  
シ者ハ違警罪裁判所ニ其罪許ハラレ違警ノ罪

トシテ罰金ヲ科セラル可ク若シ再犯ニ係ル者ハ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

建造物ニ近接セシ地ノ人民ヨリ為ス所ノ損失償還ノ訴及ヒ其裁判管轄

人ノ便ヲ妨ク可キ建造物ヲ設立シタル工業製作者ハ官府ノ許可ヲ得タルノミニ依リテ余ノ各人ヨリ諸般ノ難詰ヲ受クルヲ免レタリト思フ可カラサルカ故ニ亦預メ勉メテ近隣ノ妨害ヲ生セサルニ注意ス可シ何ントナレハ假令

一旦官ノ許可ヲ得タリト雖モ建造物ヲ用フレ為メ蒸気或ハ臭気等ヲ發スルニ因リ其建造物ニ接近セシ人民其地ニ位居スルヲ厭ヒ又ハ位居スルヲ得サルカ若クハ煙気或ハ劇響ヲ生スルニ因リ近地ノ者ヲ困ムルカ如キ重大ノ妨害ヲ起セシ時ハ近地ノ人民之ニ對シテ故障ヲ速フルノ權利ヲ行ヒ得可ケレハナリ但シ此キ場合ニ於テハ其近地ノ財産所有者ハ其建造物ノ近地ニ在ルカ為メ已レテ財産ノ價格ヲ損シタル以テ其損失ノ償ヲ求ムルヲ得可シ

同上ノ損失償還ノ訴ハ司法官ノ審判所轄ス可  
キ者トス故ニ其訴ハ初告裁判ニ為ス可シ